

音楽科学習指導案

科目	授業学級	授業場所	使用教科書等	授業者
音楽史	音楽室2年7組(音楽科) 28名(男子4名/女子24名)	音楽室2	音楽史を学ぶ (教育芸術社)	立石 純也

1 題材名 「オーストリアの音楽・文化について知ろう」

2 題材の目標

- (1) オーストリアの音楽・文化について興味・関心もたせ、理解を深めさせる。 (情意目標)
- (2) 発表を通して表現させることで、オーストリアの音楽・文化を理解させる。 (認知目標)
- (3) 他者の発表を聴くことにより、表現する力を養わせる。 (感覚・技能目標)

3 題材の評価規準

- (1) オーストリアの音楽・文化について興味・関心をもち、課題解決に向け主体的に取り組もうとする。
(音楽への関心・意欲・態度)
- (2) ICT 機器等を有効に活用し、どのように他者にわかりやすく発表するかについて意図をもっている。
(音楽表現の創意工夫)
- (3) 調べた内容について、効果的に表現するための技能を身に付けている。 (音楽表現の技能)

4 題材の指導計画 (全8時間)

- (1) 第1次 ペアに分かれてオーストリアの音楽・文化で興味・関心をもった内容を選ぶ。(1時間)
- (2) 第2次 研究内容について資料を基に調べる。(4時間)
- (3) 第3次 相互発表をする。(2時間) (本時)
- (4) 第4次 発表のまとめをする。(1時間)

音楽科では、毎年2年生のこの時期に、海外研修旅行でオーストリアを訪れており、音楽史の授業などで学んだことを実際に体感することで、より深い学習に繋がっている。また、事前研究としてヨーロッパの音楽・文化、生活習慣などについてもペア・グループに分かれて調べ学習に取り組んでいる。

これらの学習活動を通して、調べた内容を音楽史の知識に関連付けて発表し、相互理解を深めることで、研修旅行がより深い学習の機会になるようにさせたい。

5 教材観

音楽科では2年次から3年次までの2年間にわたり「音楽史」を学習する。「音楽史」を学習することは、音楽の歴史的な背景の理解や音楽理論の知識を高めるとともに、演奏表現の土台を形成していくために大変重要なものである。また、研修旅行先であるオーストリアについての調べ学習は、「音楽史」での学びをより深いものとし、研修旅行を通じて体感した学びを今後の演奏表現の高まりにつながると考えた。

6 生徒観

音楽科の生徒は男子4人、女子24人名、計28人であるが、ピアノなど専門的な音楽の研究（学習）を入学後に始める生徒も多い。専攻ごとの内訳は、管弦打楽器専攻生18人、ピアノ専攻生6人、声楽専攻生3人、作曲専攻生1人となっている。

音楽史については4月から学習している。学習状況については、実際の演奏表現を深めるような内容にまで理解が到達していないため、今回の研修旅行を通してより実践的な学習につながるようにさせたい。

学級の雰囲気は、明るく活発な授業を展開することができるが、言語活動が苦手な生徒も見られる。今後、自分の考えや意見をしっかりと述べる事が出来る生徒を育成していきたい。

7 指導観

生徒が協力して調べた内容について、互いにしっかり理解できるような発表の仕方を工夫させたい。また、アクティブ・ラーニングの視点をふまえた調べ学習を通して、音楽表現をより深めるよう技能を身に付けさせたい。さらには、今回の学習活動によって得た知識・技能を活用し、研修旅行がさらに充実したものになるように学習をすすめたい。

8 本時の展開

(1) 本時の目標

ア 意欲的に授業に取り組み、生き生きとした発表ができる。 (音楽の関心・意欲・態度)

イ オーストリアの音楽・文化について理解し、相互発表に関心をもって取り組むことができる。

(音楽表現の創意工夫、音楽表現の技能)

(2) 本時の実際

過程	展開	学習内容	指導上の留意点 () は評価の観点
導入	5分	○前時までの調べ学習についての過程を振り返る。 ○本時の学習目標を確認する。	学習目標について理解させ、課題解決にむけて意欲をもたせる。 (関心・意欲・態度)
展開	10分	○研修旅行の行程や研修内容を確認する。 ○オーストリアについて基本的事項について演習を行い、理解を深める。 【アクティブ・ラーニングの視点】	研修の目的について正しく把握させる。 生徒の理解度を確認しながら、場合によっては個別に指導を行い、理解を深めさせる。(表現の創意工夫・技能)
	30分	○研究内容について発表する。 ・オーストリアの歴史や文化について ・鑑賞するオペラについて ・演奏する楽曲・作曲者について 【アクティブ・ラーニングの視点】 ○発表した内容について相互に意見や感想を述べる。	研究内容を整理させ、分かりやすい発表になるよう工夫させる。 相互の発表や意見について相互理解につながるようにさせる。 (表現の創意工夫・技能)
まとめ	5分	本時のまとめと次時の予告	本時についてまとめる。 次時の予告をする。

(3) 本時の評価

ア オーストリアの歴史や文化について興味・関心をもつことができる。(関心・意欲・態度)

イ 相互発表を通して他者の意見を理解するとともに調べた内容を他者へ分かりやすく発表することができる。(表現の創意工夫、表現の技能)